

資料提供

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (令和6年12月調査)

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
 この度、令和6年12月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 現状は3期ぶりに50を上回り、先行きは3期連続で50を下回った～

☆ここがポイント

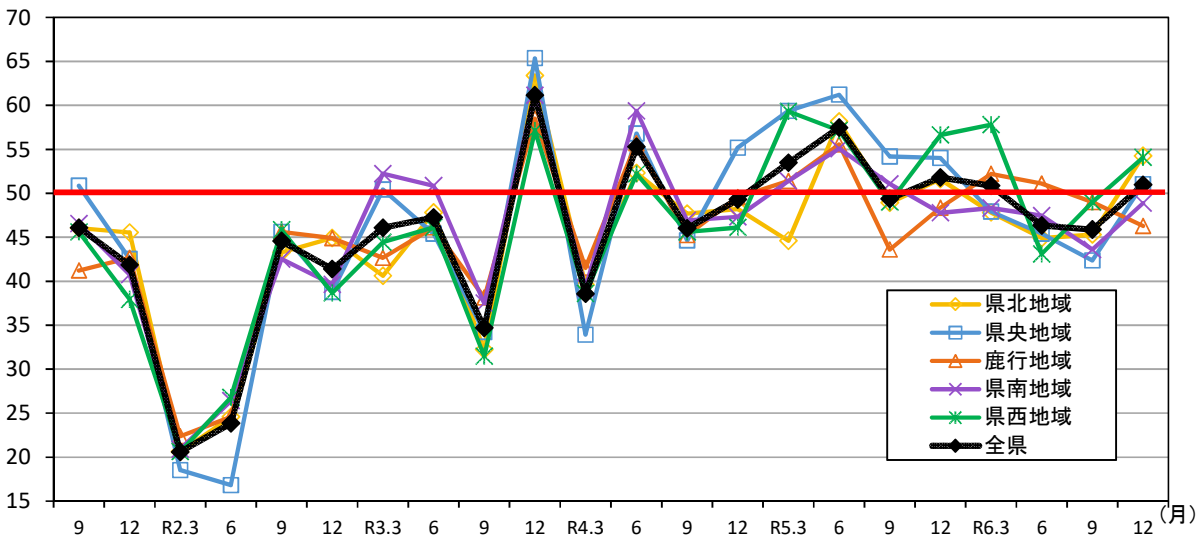
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気の方角性(景気が上向きか下向きか)を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	12月調査結果	前回調査との差	12月調査結果	前回調査との差	
県全体	51.0	+5.1	46.3	△2.4	
県北	54.3	+9.0	46.8	△2.2	
県央	51.0	+8.7	46.9	△2.1	
鹿行	46.3	△2.7	44.7	△4.3	
県南	48.9	+5.3	44.4	△0.8	
県西	54.1	+5.1	48.5	△2.5	

○県全体の景気判断DIは、現状は3期ぶりに50を上回り、先行きは3期連続で50を下回った。

○地域別では、鹿行のみが現状も先行きも前回調査を下回った。分野別では雇用関連だけが現状も先行きも前回調査を下回った。

○ウォッチャーからは、物価高騰や最低賃金の上昇、節約・買控えに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移 (地域別)



[調査の概要]

- ・ 調査客数 … 県内5地域(県北、県央、鹿行、県南、県西)ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断(「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択)とその判断理由(コメント)の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期(6、9、12、3月)毎に実施し、翌月公表。(今回調査期間:令和6年12月5日から20日まで)
- ・ 回答率 … 94.4% (250名中236名から回答)

(地域区分) 県北地域: 日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域: 水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域: 鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
 県南地域: 土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域: 古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月 回答	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月	令和6年 12月
良くなっている	5.1%	2.6%	3.8%	1.6%	3.4%
やや良くなっている	23.6%	26.3%	17.5%	17.3%	24.6%
変わらない	48.9%	46.1%	45.0%	49.0%	49.2%
やや悪くなっている	18.1%	22.0%	27.9%	27.2%	18.2%
悪くなっている	4.2%	3.0%	5.8%	4.9%	4.7%

先行き判断回答構成比

調査年月 回答	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月	令和6年 12月
良くなっている	2.5%	2.6%	1.7%	0.8%	0.8%
やや良くなっている	17.3%	29.7%	19.2%	22.6%	20.3%
変わらない	56.1%	52.2%	52.9%	50.6%	48.3%
やや悪くなっている	20.3%	14.7%	22.1%	22.2%	24.2%
悪くなっている	3.8%	0.9%	4.2%	3.7%	6.4%

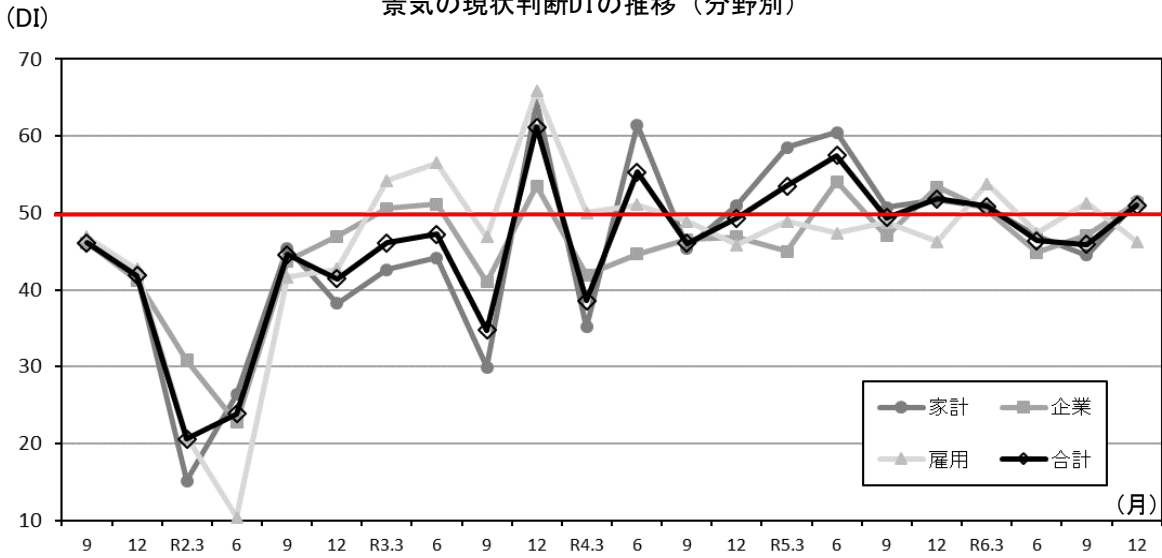
2 分野別の動向

(1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より7.0ポイント上昇し、3期ぶりに50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より4.2ポイント上昇し、3期ぶりに50を上回りました。
 雇用動向関連DIは、前回調査より5.0ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。

調査年月 分野	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月	令和6年 12月
合計	51.8	50.9	46.4	45.9	51.0
家計動向関連	51.8	50.7	47.0	44.5	51.5
小売関連	43.9	48.6	43.3	37.5	44.6
飲食関連	64.1	54.4	47.2	46.9	46.9
サービス関連	55.4	49.1	47.9	48.4	57.0
住宅関連	55.6	68.8	63.9	58.3	61.1
企業動向関連	53.3	50.3	44.9	47.1	51.3
農林水産業	50.0	53.6	56.3	42.9	56.3
製造業	53.8	45.0	37.5	43.8	48.8
非製造業	53.7	57.1	51.7	52.5	53.3
雇用関連	46.3	53.8	47.4	51.3	46.3

景気の現状判断DIの推移（分野別）



(2) 先行き判断DI

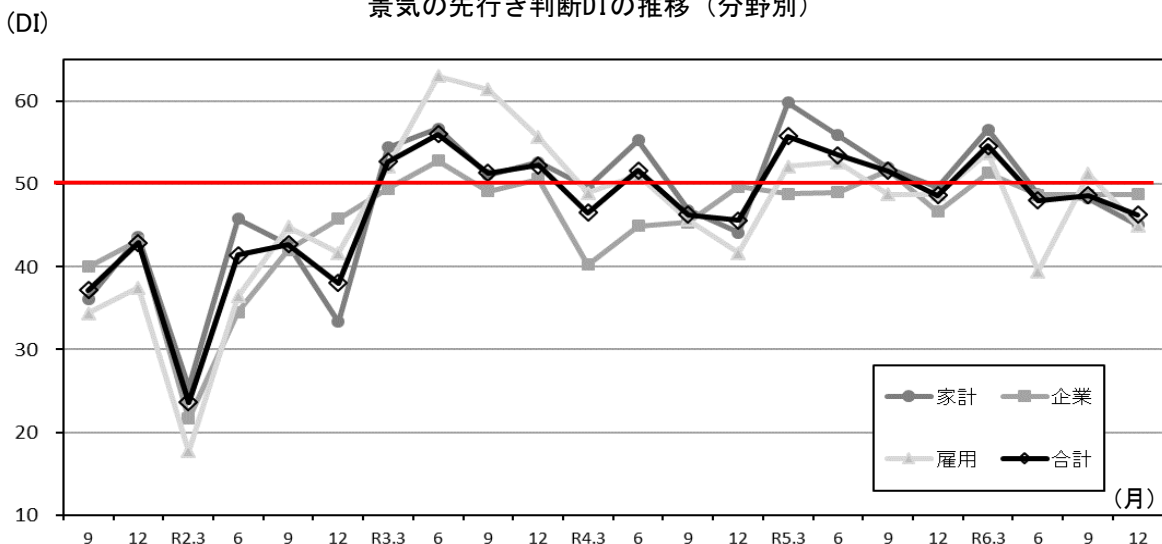
家計動向関連DIは、前回調査より3.2ポイント低下し、3期連続で50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より変わらず、3期連続で50を下回りました。

雇用動向関連DIは、前回調査より6.3ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。

分野	調査年月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月	令和6年 12月
合計		48.6	54.6	48.0	48.7	46.3
家計動向関連		49.6	56.6	48.8	48.3	45.1
小売関連		46.1	51.8	43.8	44.8	44.6
飲食関連		60.9	63.2	55.6	51.6	43.8
サービス関連		47.9	58.3	52.9	49.6	46.3
住宅関連		63.9	62.5	38.9	55.6	41.7
企業動向関連		46.7	51.3	48.7	48.7	48.7
農林水産業		50.0	50.0	56.3	46.4	46.9
製造業		43.1	49.4	49.4	46.9	44.5
非製造業		50.9	54.5	45.8	51.7	55.0
雇用関連		48.8	53.8	39.5	51.3	45.0

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



3 ウォッチャーのコメント抜粋

(1) 県北地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは54.3となりました。前回調査より9.0ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期ぶりに上回りました。

- ・ (ゴルフ場) 3か月前の予約状況と比較すると、明らかに予約の取り方に変化が見られる。予約状況の問合せが多く、他コースで予約が取れなかった方からの問合せが増えているが、既に予約が入っていて断るケースもある。予約枠獲得のための年間予約の問合せなども多く、冷え込んでいた県北地区の各ゴルフ場の予約状況に変化を感じているため、良くなっていると判断した。また、表彰式やパーティの開催費用、賞品の金額も一時よりは単価も高額になり、来場者人数も伸びて来ている。客単価は急激に上がったわけではないが、緩やかに上昇している。
- ・ (製造業(化学工業)) 取引先の業容が拡大し、それに伴う受注増が見受けられるため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは46.8となりました。前回調査より2.2ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (レジャー施設) 他社との取引を担っていると、経費削減の動きが更に活発になっていると感じる。賃金やボーナスを見ても上昇はしているが、上昇を超える支出増となっており、やや悪くなっていると判断する。また、県外からの来園者割合が減っており、遠出をする余力が減少しているように感じる。
- ・ (製造業(電気機械器具)) 中国経済の鈍化で(特に不動産業に影響)、1月からの受注が現在の半減となったため、悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (林業関係者) 機械一つとっても毎年10%以上の値上げは辛い。更に入荷までには1年以上と経営状況とリンクしづらいのが不安である。
- ・ (製造業(電気機械器具)) 建設工事の価格が上昇し納期が長期化している。背景として職人の不足が影響しているようである。特に若手の不足が著しく、当社に来社している職人の年齢は60歳以上がほとんどである。

(2) 県央地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは51.0となりました。前回調査より8.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期ぶりに上回りました。

- ・ (小売業) イベント関連が盛況で、来店客数が増加し、売上高も伸長しているため、良くなっていると判断した。また、歳末商戦、年始商戦に向け、消費行動の活発化も期待できる。
- ・ (不動産業) 個人法人問わず取引総量に大きな変化は感じないため、変わらないと判断した。ただし、建設業コスト高・働き方改革により、個人向けの新築の注文住宅や分譲マンション価格は青天井に上がっており、限られた人しか購入できない状況は続くのはではないかと考える。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは46.9となりました。前回調査より2.1ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (都市型ホテル) 歓迎会のシーズンを迎えるが、現在の予約状況を見ると伸びていない。予約が集中する日にちや曜日が限られ、特に平日は伸びないため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) 米大統領の交代によりEV化の流れが足踏みすることが予想され、また、定期的に行われる米港湾のストライキの影響もあり、輸出入に滞りが発生すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (製造業(輸送用機械器具)) 身の回りについても個人消費が活発になっている実感はない。年末年始の帰省も日数を減らす声が聞こえたり、電化製品なども積極的な買替えは控えている様子が見られる。
- ・ (建設業) 茨城空港の離発着の緩和に伴い、就航エアラインが増えた。それに伴い、空港を核とした県・市の発展につながると良いと思う。

(3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは46.3となりました。前回調査より2.7ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (衣料品販売店) 常連客の来店頻度が減ってきている。一般客の来店も少ないため、悪くなっていると判断した。物価高で洋服(身の回り品)の購入は完全に後回しになっている。更に暖冬が追い打ちをかけており、ダウンジャケットやコートなどの重衣料が売れていない。この時期に単価の高い重衣料が売れないのは死活問題だ。
- ・ (民間職業紹介業) 職場で、欠員が発生してもその補充がないが増えてきたため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは44.7となりました。前回調査より4.3ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (住宅販売会社) 住宅建設業界の動向や問屋の話からも、資材の高騰により建設単価が上がり、客の要望と現実価格との差の解消が難しくなっているため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (公共職業安定所) 業況判断を良いと判断する事業所が減少し、現在よりも、仕事の受注が減少すると見込んでいる事業所が増加しているため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (日本料理店) 忘年会や二次会などの話もなく、代行やタクシーが減少している問題も重なり、全体的に夜の街の動きが鈍い感じがする。
- ・ (金融業) 賃貸物件の建築が増加しているように思う。また、一般企業勤務者が副業を開始する機会が増えていると感じる。

(4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは48.9となりました。前回調査より5.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を5期連続で下回りました。

- ・ (タクシー会社) 人の流れは感じるが景気が良いとは感じない。本来なら繁忙月ではあるが、継続した人の流れが期待できない。曜日や時間帯、天気によっても動きが偏り、平均して安定した売上げにはつながらないため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (金融業) 企業の設備投資も力強さに欠ける感があるため、やや悪くなっていると判断した。また、金利のある世界を実感する顧客が増え、預金金利の上昇から、金利に敏感な顧客からの問合せや、預け替え相談が増加している。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは44.4となりました。前回調査より0.8ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (設計事務所) 住宅ローンの審査が通りづらくなった。建設資材の値上がりにより(特に生コン)契約にならないケースが多いため、悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(非鉄金属)) 主戦場である北米での販売が軟調になってきており、今後、販売台数の減少が見込まれるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (小売業(米穀)) 以前にも増して、飲食店の人手不足は続いており、ほとんどの店がタブレット注文になっている。また、店舗側の負担が大きいため、券売機の新紙幣対応が進んでいないようだ。
- ・ (都市型ホテル) 今年を振り返ると、例年に比べ大型の学生団体の受入れが多かった。県南地域の研究施設へ勉強をするために来県するコースが人気になっているらしい。こういう催しが更に周知されれば、より多くの学生が来県し、県南地域が経済的に活性化するのではないかと期待する。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは54.1となりました。前回調査より5.1ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期ぶりに上回りました。

- ・ (農業関係者) 地域の主要品目である白菜に関して、出荷最盛期を迎え収量前年比+10%、単価についても+10~15%と前年を上回っている。その他の品目についても、ここ数年と比較して販売環境は良好であるため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (人材派遣業) 例年の年末繁忙とは別に、短期ではあるが派遣依頼が増えている印象。特に物流系、サービス業からの依頼が増加しているため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは48.5となりました。前回調査より2.5ポイント低下して、横ばいを表す50を8期ぶりに下回りました。

- ・ (コンビニエンスストア) ガソリンの補助金縮小があり、家計への影響が懸念される。また、物価の高騰は継続する見込みのため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(化学工業)) 現状は需要が上がるような気配がなく、顧客のフォーキャスト(業績目標管理)でも第1四半期は低調となっている。回復は早くも春先~夏頃になると予想されるため、3か月程度では変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (商店街代表者) 手土産商品はよく売れている。出かける機会は増えていそう。地域柄「使う時は使う、ケチる時は1円でもケチる」ので価格転嫁が難しい。
- ・ (人材派遣業) 圏央道付近での新たな雇用創出が見込まれる。埼玉県境付近の市町村では新たな工業団地が来年から引き渡しを開始され、境古河インタージェンジ付近では大型テナント倉庫が新設されるなど、景気を押し上げる情報がいくつかある。

(6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ①「物価高、値上げ」に関するコメント 227件 (県北: 44 県央: 42 鹿行: 65 県南: 42 県西: 34)

- ・ (製造業(食料品)) 来年1月から3月にかけては、値上げ商品数がかなり多いようだ。また、賃上げが物価上昇に追いついていない状況では、景気が良くなるとは到底思えない。103万円の壁の検討結果次第では可処分所得の更なる減少も懸念されるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (運転代行) 物価高を痛感する。日常生活に大きく影響を与えている。この先いつまで続くのか不安に思う。

- ②「最低賃金上昇に伴う影響」に関するコメント 59件 (県北: 15 県央: 10 鹿行: 16 県南: 9 県西: 9)

- ・ (小売業(弁当・惣菜店)) 最低賃金の急上昇は事業主にとって大きな戸惑いのようで、頻りに話題に上がる。人件費及び経費の上昇を価格にどう転嫁するかが、今後の景気のカギとなると思う。また、求人の条件が、県南(東京近地)と県北で格差を感じる。求職者の取り合いが地域差となってきていないか不安である。
- ・ (家電量販店) 客からは「給与アップを期待したが思ったほど上がらなかった」という声が聞こえてくる。1月からの値上げ商品も増えることから、消費行動は最低限にとどまると予想される。

- ③「節約、買控え」に関するコメント 40件 (県北: 12 県央: 9 鹿行: 6 県南: 5 県西: 8)

- ・ (スーパー) 食品棚での商品の動きが同じカテゴリーの商品でもより安い商品へ利用が移っている傾向がある。例えば、カレールーでも今まではNB(ナショナル・ブランド)商品とPB(プライベート・ブランド)商品の価格差が大きくなかったためNB商品を利用する傾向にあったが、今は安いPB商品を利用する傾向がみられる。また、電卓を使用して買物をする客を多く見かけるようになった。
- ・ (農業関係者) 購入したいと思った日用品は、格安品を検索してから購入している。食料品も、年越しを迎え贅沢品を購入しようと考えたが、今回は見送った。まだまだ「緊縮財政」で無駄を省き生活している方は、自分も含め多いのではないかと。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>